

7 ^{しものぼう} ^{おお} 下之坊の大スギ

〔天然記念物（植物）〕

〔所在地〕 天理市福住町 265 番地

〔所有者〕 下之坊

〔員 数〕 2 株

〔概 要〕

スギはヒノキ科スギ亜科スギ属の常緑針葉樹である。日本の固有種で、本州北端から屋久島まで広く自生し、北海道の各地にも造林されている。

下之坊の大スギは天理市福住町に位置する。下之坊はもと普光院永照寺といい、長谷寺の末寺である。下之坊は集落から見上げる位置にあり、参道が集落から続いている。この参道先の石段の南北両側に、スギの巨樹がある。スギはあたかも山門のようである。

北側のスギは幹周 7.4m、樹高は 37.2m である。地上 4.5~5.0m のところで 6 本に分岐する。このうち中央の 2 本の分岐幹は直立するが、ほかの 4 本の分岐幹は横（水平）方向に広がったのちに上方に直立する。4 分岐幹の基部は円形ではなく、上下（鉛直）方向に顕著な肥大成長が認められ、長楕円形を呈する。このような長楕円形の幹の形状は、幹に圧力がかかることによって生じる。

一方南側のスギは北側のものと比べるとやや小さく、幹周 5.3m、樹高は 36.2m である。幹の分岐は見られず、直立する。

南北のスギはいずれも樹勢は盛んである。根のはりも広く、下之坊の境内全体に及んでいる。樹齢は 700 年から 800 年とされているが、詳細は不明である。

寺伝では下之坊の本尊を、聖武天皇と婆羅門僧正の合作と伝えている。このことにちなみ、大スギは婆羅門杉とも通称されている。

下之坊の大スギは県下でも有数のスギの巨樹であり、なかでも北側のスギは、分岐する形状が希少である。このような形状となる原因については不明な点も多いが、スギの特異な生態を示す事例として学術的価値が高い。また地域のシンボル、ランドマークとしても、地域住民に大切にされている。



下之坊の大スギ（左：北側のスギ 右：南側のスギ）